

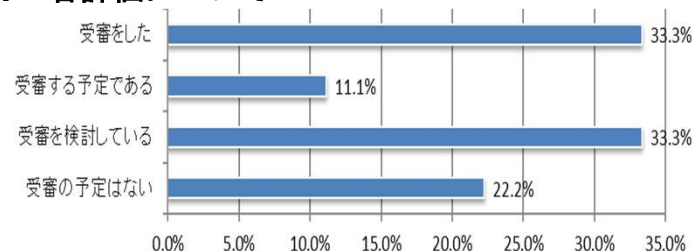
■学習成果の可視化に関するアンケート

会員校の皆様の教育活動における学習成果の可視化について、状況を把握し、今後の専門学校教育での学生評価や学習成果の可視化を検討する資料等の情報提供のため、会員専門学校の状況等を調査した

●調査時期 令和4年1月14日～令和4年1月31日 ●回答数 9件(回答学校数 8校) ●回答率 11.4%

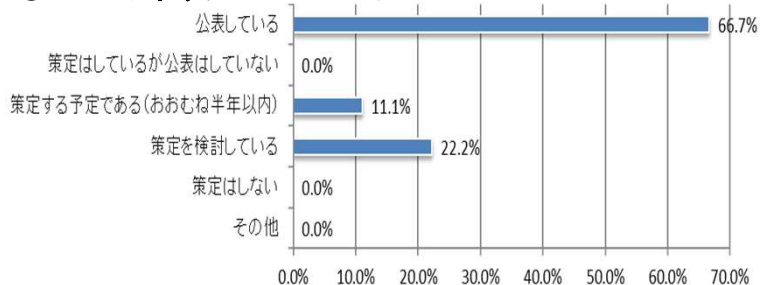
専修学校の学校評価は、今のところ「自己評価の実施と公開」が義務化され、また、職業実践専門課程においては、「学校関係者評価の実施と公開」が要件となっています。今後、「第三者評価」受審が制度化され、また、三つの方針(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)策定と公表が義務化されることが予想されます。三つの方針の策定・公表により、教育内容や学習成果について、可視化が要求され、評価対象になってゆくと考えられている。

●第三者評価について



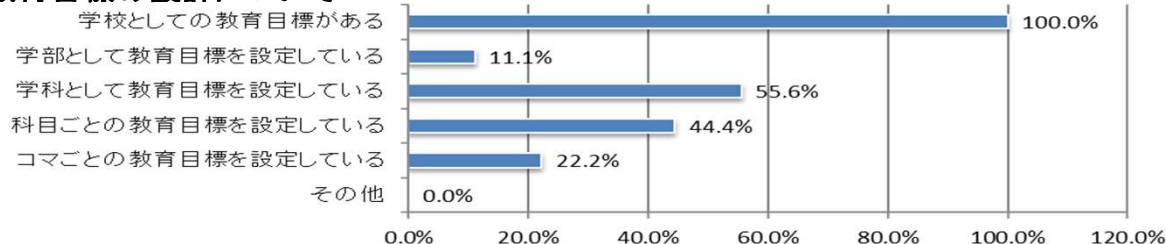
すでに受審をしている学校が3割、受診予定、受診を検討を含めると7割以上の学校が対応している状況である

●三つのポリシーについて

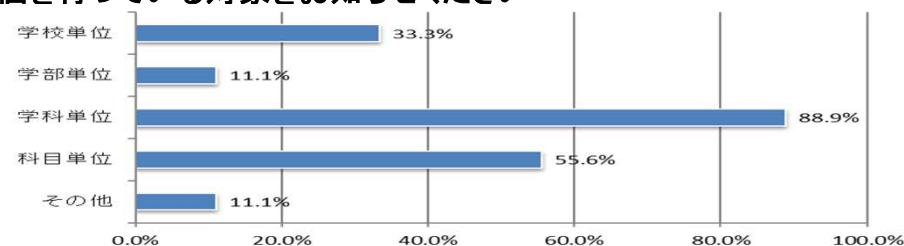


6割を超える学校ですでに公表している
ほぼすべての学校が三つのポリシー策定・公表に対応している状況である

●教育目標の設計について



●学習成果の計測・評価を行っている対象をお知らせください



・教育目標の達成度については、教育目標を設定していない範囲への回答もあり、教育目標と計測・評価基準・達成度について整理する必要がある。

●学習成果の評価・計測について

・基準を設けている学校は4割。評価の方法や基準について、整備が必要である

●教育目標の達成度を計測する項目について

・どの項目がどの程度の評価であれば、達成度が100%となるのかの基準や評価を整理・整備する必要がある。また、計測・評価の結果をどう表現して可視化を図るか標準化が求められる